

# 第19回 九頭竜川水系足羽川ダム 事業費等監理委員会資料

—足羽川ダム建設事業—

令和7年8月8日



足羽川ダム工事事務所

# 目次

## I. 足羽川ダム建設事業の概要

## II. 事業の進捗状況

- ①令和7年度実施内容
- ②事業進捗
- ③前回委員会以降の取り組み報告

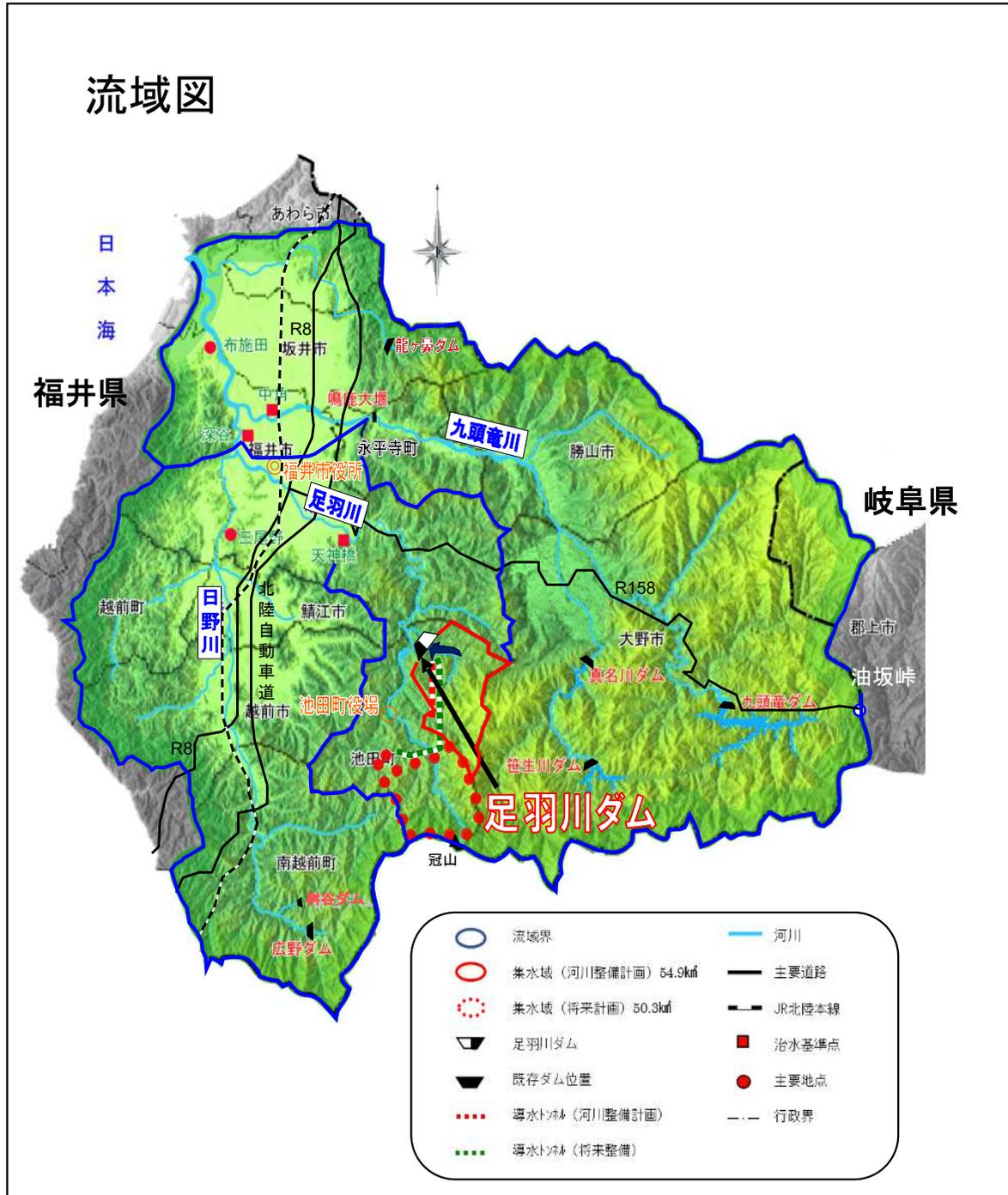
## III. 委員会における指摘事項

## IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

# I . 足羽川ダム建設事業の概要

# I. 足羽川ダム建設事業の概要

## 流域図



## 足羽川ダムの位置



九頭竜川水系足羽川

流域面積 : 約416km<sup>2</sup>

幹川流路延長: 約61.7km

足羽川ダム集水面積: 約54.9km<sup>2</sup>

(河川整備基本方針対応施設: 約105.2km<sup>2</sup>)

※天神橋地点において600m<sup>3</sup>/sの流量低減

# I. 足羽川ダム建設事業の概要



至 福井市

至 南越前町

# I. 足羽川ダム建設事業の概要

○場 所 : 福井県今立郡池田町小畑地先（九頭竜川水系足羽川支川部子川）

○目 的 : 洪水調節（足羽川、日野川、九頭竜川の洪水防御）

## ○堤 体

- ・型 式 : 重力式コンクリートダム（流水型ダム）
- ・堤 高 : 96.0 m
- ・堤頂長 : 約 351.0 m
- ・天頂標高 : 標高 271.0 m

## ○ダム洪水調節地

- ・集水面積 : 約 54.9 km<sup>2</sup>（直接流域：34.2km<sup>2</sup> 間接流域：20.7km<sup>2</sup>）  
（基本方針対応での計画 約 105.2 km<sup>2</sup>）
- ・湛水面積 : 約 94 ha
- ・常時満水位 : ー（常時は空虚）
- ・洪水時最高水位 : 標高 265.7 m
- ・総貯水容量 : 28,700,000 m<sup>3</sup>

## ○導水トンネル（基本方針対応での計画 4川導水）

- ・区間距離 : 約 4.7 km（部子川～水海川）
- ・トンネル径 : 8.5 m（ " ）

## ○分水堰（基本方針対応での計画 4分水堰）

- ・堤 高 : 約 19 m（水海川分水堰）
- ・堤頂長 : 約 94 m（ " ）

注）「河川整備計画」期間内に整備する施設の概要を示しています。

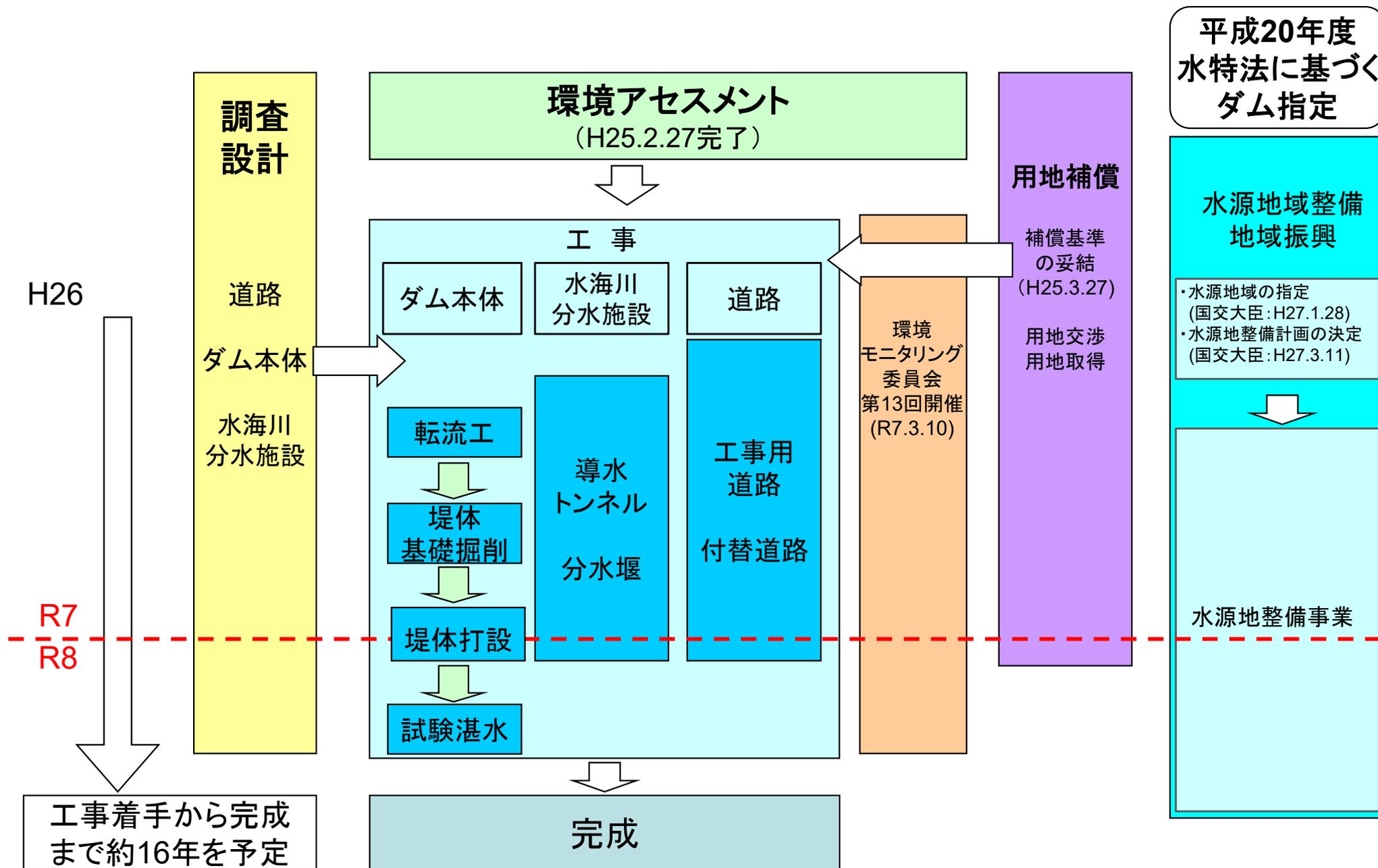
# I. 足羽川ダム建設事業の概要

## 事業の主な経緯・経過

昭和58年 4月	実施計画調査開始
平成 6年 4月	建設事業に移行
平成11年11月	代替ダムサイト候補案の公表 (H9.9ダム審議会より答申。旧ダムサイトは社会的影響が大きいため(約220戸の移転)、水没世帯が少なくなるように最善の努力。H19年2月河川整備計画によりダムサイトを正式決定)
平成16年 7月	福井豪雨による甚大な被害の発生 (死者行方不明者5名、重軽傷者19名、住居全半壊196戸、床上浸水3,313世帯、床下浸水10,324世帯(福井県地域防災計画 資料編 H29.3))
平成18年 2月	九頭竜川水系河川整備基本方針策定
平成19年 2月	九頭竜川水系河川整備計画策定 (I期工事(足羽川ダム・水海川導水路・水海川分水工)が位置付け)
平成20年 8月	平成20年度九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会(第1回目)の開催
平成22年12月	ダム事業の検証に係る検討を開始
平成24年 7月	ダム事業の検証において、事業継続の対応方針決定
平成25年 3月	足羽川ダム建設事業に伴う損失補償基準の締結
平成26年 6月	足羽川ダム建設事業(県道松ヶ谷宝慶寺大野線付替工事)着工式
平成27年 1月	水源地域対策特別措置法に基づく、足羽川ダムに係る水源地域の指定
平成27年 3月	水源地域対策特別措置法に基づく、足羽川ダムに係る水源地域整備計画の決定
平成27年 8月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
平成29年 7月	足羽川ダム建設事業(水海川導水トンネル工事)起工式
平成30年 3月	転流工事 着工
令和元年 8月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
令和 2年11月	転流工通水開始
令和 2年11月	本体工事 着工(足羽川ダム本体建設工事起工式)
令和 4年10月	本体コンクリート打設開始
令和 4年11月	足羽川ダム定礎式
令和 5年 7月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
令和 5年12月	九頭竜川水系河川整備基本方針(変更)

## Ⅱ. 事業の進捗状況

## II. 事業の進捗状況



## Ⅱ. 事業の進捗状況

事業完了までに要する必要な工期

:クリティカル

種 別		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
ダ ム 堤 体 の 工 事	仮排水路トンネル(転流工)																
	ダム本体掘削(堤体基礎掘削工)																
	堤体打設																
	管理設備工・放流設備工																
工事用道路(工事用道路の設置工事)																	
導水トンネル(導水施設(分水堰含む)の工事(部子川～水海川))																	
建設発生土の処理																	
付替道路(道路の付替工事)																	

※今後行う詳細な検討結果や設計成果、予算の制約や入札手続き等によっては、見込みのおりとならない場合がある。

## Ⅱ. 事業の進捗状況

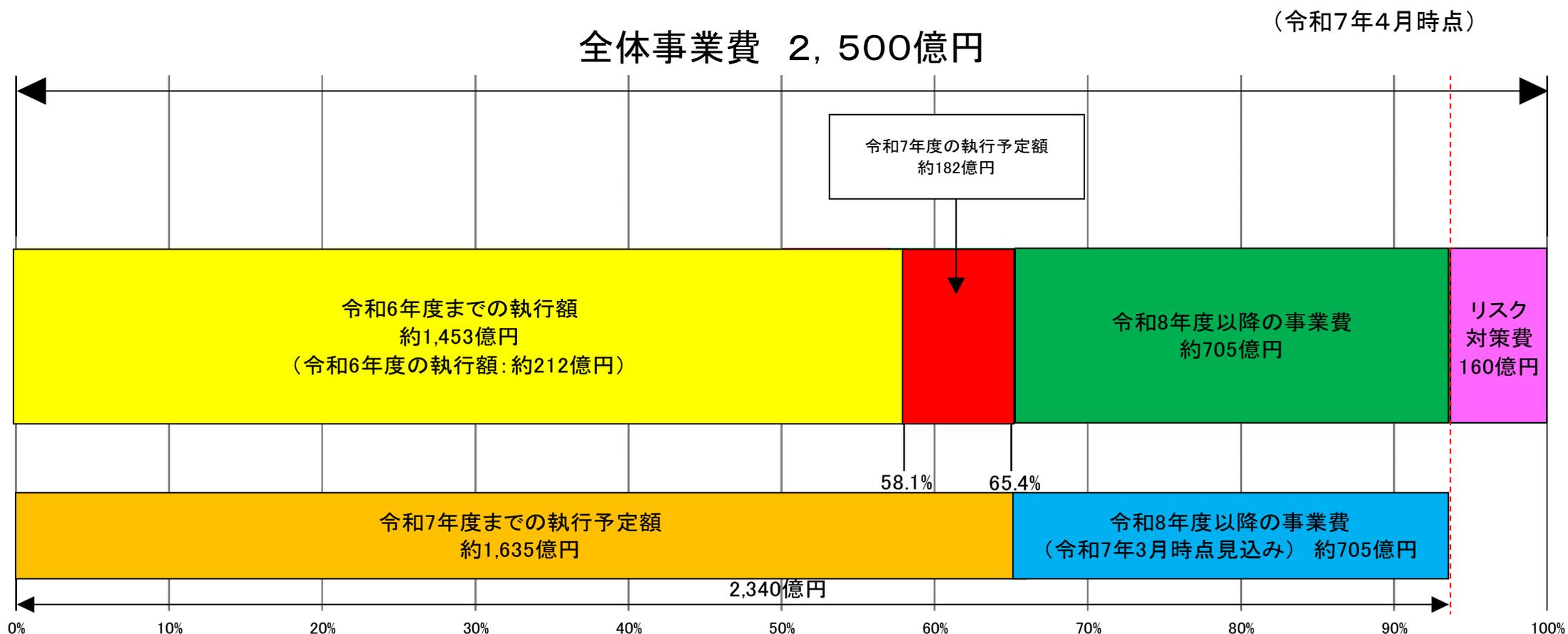
(令和7年7月末時点)

補償基準	H25. 3 損失補償基準妥結 (地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結)												
用地取得 (約159ha)	99% (約157ha)												
家屋移転 (68戸)	100% (68戸)												
付替県道 (6.1km)	計画	46% (2.8km) <small>7% (0.5km)</small>	47% (2.8km)										
	実績	73% (4.5km)											
付替町道 (4.5km)	計画	39% (1.8km)	61% (2.7km)										
	実績	41% (1.8km)											
ダム本体及 び関連工事	計画	仮排水トンネル 100%	基礎掘削 100%	コンクリート打設 (663千m <sup>3</sup> ) 23.8% 30.6% 45.6%	試験湛水								
	実績	仮排水トンネル 100%	基礎掘削 100%	コンクリート打設 (494千m <sup>3</sup> ) 74.5%	試験湛水								
<small>※堤体のみ</small>													
導水施設	計画	導水トンネル (4.7km) 82.7% <small>15.2%</small> <small>2.1%</small>	分水施設 (掘削) 33.4% <small>13.4%</small> 53.2%	分水施設 (打設) 38.8% 61.2%	<div style="text-align: center;">凡例</div> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>R5年度末:</td><td style="width: 20px; height: 10px; background-color: yellow;"></td></tr> <tr><td>R6年度末:</td><td style="width: 20px; height: 10px; background-color: red;"></td></tr> <tr><td>R7年度以降:</td><td style="width: 20px; height: 10px; background-color: green;"></td></tr> <tr><td>R7末実績:</td><td style="width: 20px; height: 10px; background-color: lightblue;"></td></tr> </table>	R5年度末:		R6年度末:		R7年度以降:		R7末実績:	
	R5年度末:												
R6年度末:													
R7年度以降:													
R7末実績:													
実績	導水トンネル (4.7km) 99.8%	分水施設 (掘削) 53.7%	分水施設 (打設) 33.4%										
<small>※進捗率は、掘削によるもの</small>													

※付替県道・町道の進捗率は、  
契約ベースによるもの

## Ⅱ. 事業の進捗状況

### ○ 全体事業費の執行状況及び予定



※ 上記表示額は令和7年4月時点のものであり、今後精算等により変更があり得る。  
なお、上記表示額は、四捨五入の関係から、計算が合わない場合がある。  
※ 令和7年度の執行予定額は、当初配分額を表示している。

令和7年度は、約182億円をもって、以下の内容を実施します。

### ■ 用地及び補償費 約 36億

- ・ダム建設に必要な土地等の取得、物件補償を継続して実施します。
- ・補償工事として付替道路工事を継続して実施します。

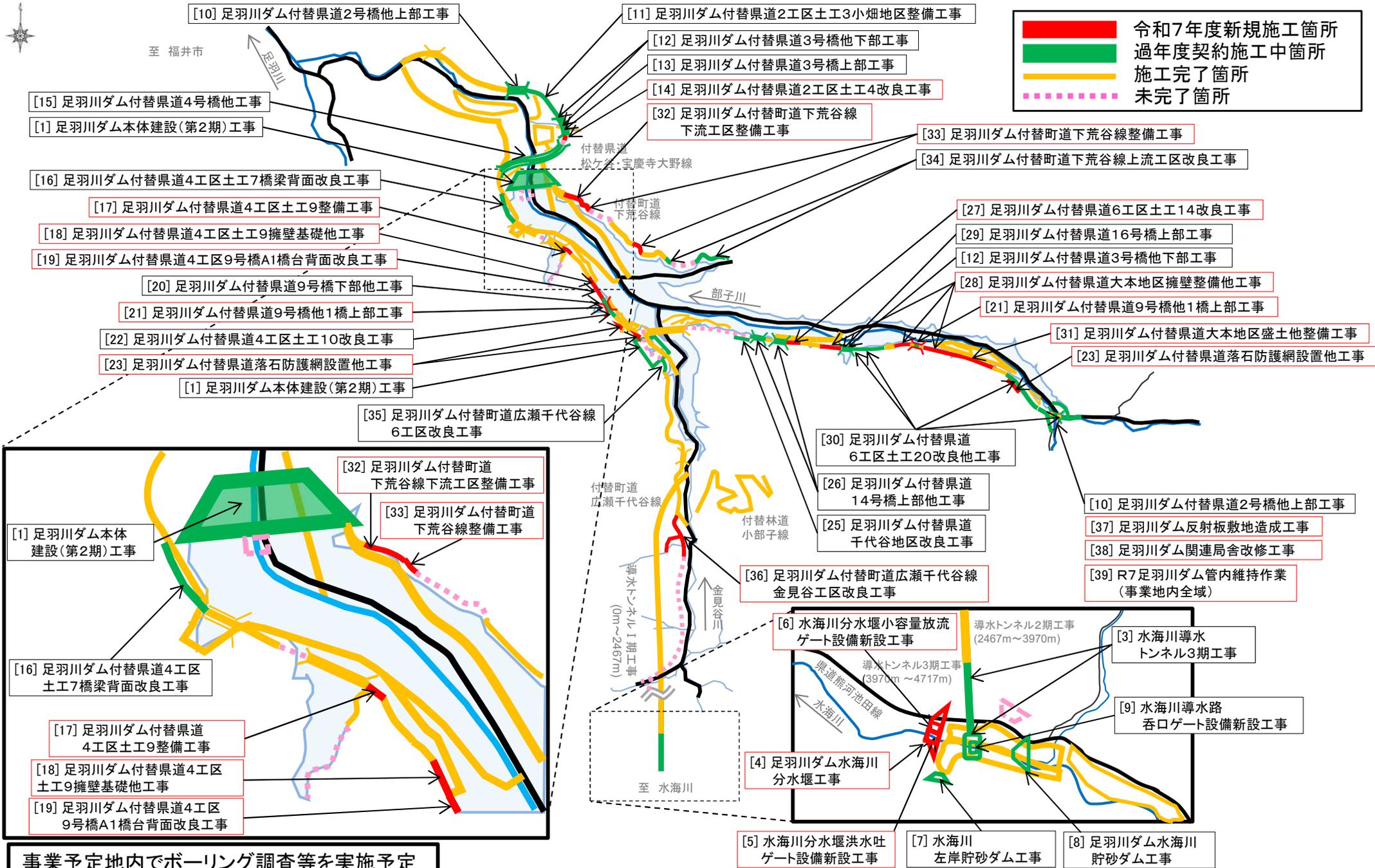
### ■ 工事費 約 127億

- ・ダム本体(堤体打設)工事及び原石山の掘削工事を継続して実施します。
- ・水海川導水トンネルの掘削完了及び本川及び左岸貯砂ダムが完成します。  
引き続き、水海川導水トンネル工事及び水海川分水施設関連(分水堰、貯砂ダム)工事を実施します。

### ■ 測量設計費等 約 19億

- ・ダム関連施設(管理設備含む)の設計及び必要となる調査を継続して実施します。
- ・水位・流量観測、雨量観測、河川の水質観測や気象観測、環境モニタリング調査を継続して実施します。

# Ⅱ.① 令和7年度実施内容



※事業の進捗状況により、追加工事等が発生する場合があります

## Ⅱ.① 令和7年度実施内容

### ダム本体等調査設計、水理・水文、環境モニタリング調査等

- ダムの管理・運用に向けて、管理設備に必要な計画検討を行う。
- 水位・流量観測、雨量観測、河川の水質観測や気象観測等を継続して実施。
- 環境影響評価書(公告 H25.2.27)に基づき、事業区域とその周辺の環境モニタリング調査及び環境保全措置を実施。



流量観測の実施状況(部子川小畑地区)



環境調査(猛禽類)の実施状況

## Ⅱ.② 事業進捗 足羽川ダム本体建設工事について

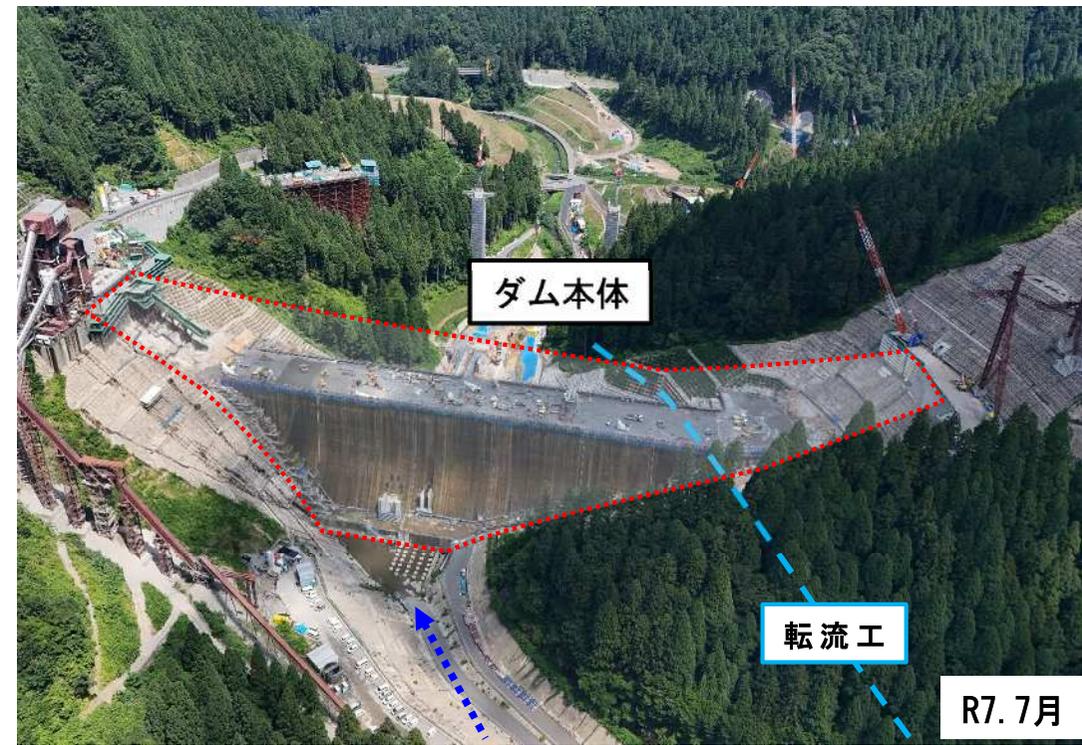
○ダム本体（堤体打設）工事及び原石山の掘削工事等を実施

全景（ダム地点下流側より撮影）

（ダム地点上流側より撮影）



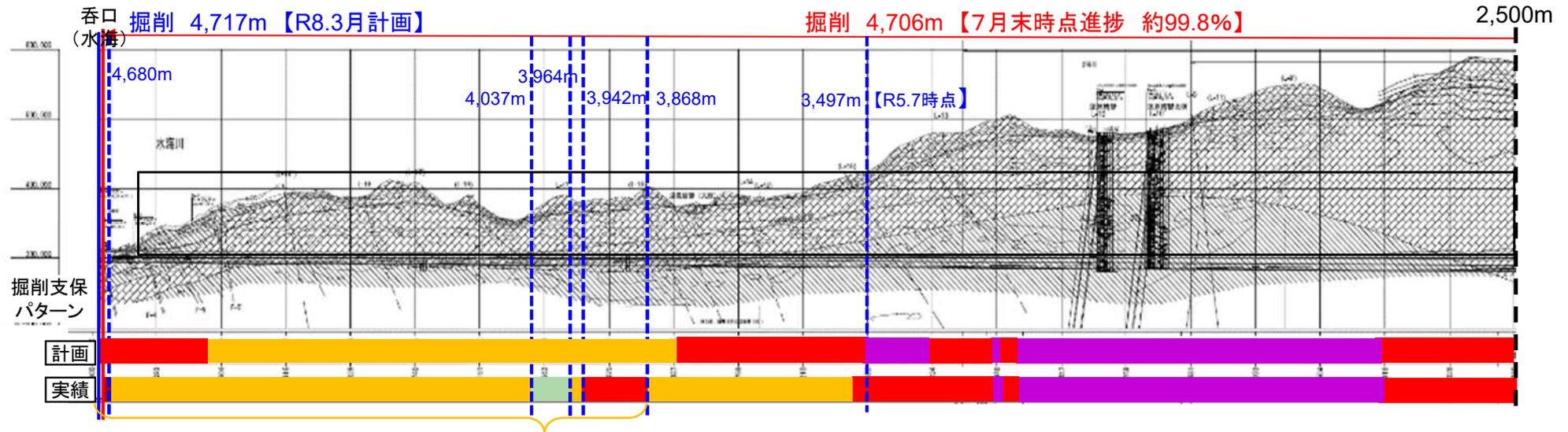
部子川（転流済み）



部子川（転流済み）

## Ⅱ.② 事業進捗 水海川導水トンネル工事について

○トンネル全延長4,717mに対して、令和7年7月末時点で4,706mまで掘削が進行（約99.8%の進捗）



○3,868m地点よりD IIとなっていたが、3,942m地点よりD I となり、概ね設計通りの地質状況となっている。

今年度冬には掘削完了予定。  
（残りは分水堰側からの掘削となり、R8年度当初貫通予定）

○水海川導水トンネル技術検討委員会において、水海川導水トンネルに関する工事に対して、施工の確実性の向上に資するため、委員より技術的な指導、助言を得ている。

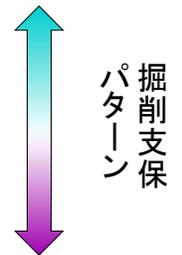
○第6回委員会（令和6年7月2日開催）において、「地山状況は改善傾向にあるが、引き続き長尺ボーリングによる前方予測と切羽の状況を見極めながら、状況に応じた支保パターンで掘削を進めること。地山状況の悪化が認められる場合は、適切な補助工法の採用を検討すること。」との意見を頂く。



掘削支保パターン  
凡例



地山の状態が良い



地山の状態が悪い

### 『第13回 足羽川ダム環境モニタリング委員会』の開催（R7. 3. 10）

#### 【モニタリング委員会概要】

日時: 令和7年3月10日

目的: 足羽川ダム工事の現地着手するにあたり、評価書を踏まえ実施する環境調査や環境保全措置等の内容について、環境面から専門家の意見を伺うことを目的に開催

委員会メンバー:

委員長: 福原輝幸(福井大学 名誉教授: 水環境)

委員: 上野裕介(石川県立大学 生物資源環境学部

環境科学科 准教授: 鳥類・生態系)

: 奥村充司(福井工業高等専門学校

環境都市工学科 准教授: 水環境)

: 松田隆喜(福井県立道守高等学校 教諭: 魚類)

: 松本淳 (越前町立福井総合植物園 園長: 植物)

(50音順・敬称略)

委員会結果: 令和6年モニタリング調査結果と環境保全措置の内容及び令和7年モニタリング調査計画(案)について、今後の調査及び環境保全措置の実施計画を確認



委員長挨拶



委員会開催状況

## Ⅱ.③ 前回委員会以降の取り組み報告

第13回足羽川ダム環境モニタリング委員会において、令和6年の調査結果を報告し、委員より意見をいただいた。

### ○クマタカ繁殖状況の調査結果

#### ■Aペア

委員会資料抜粋

#### 【繁殖結果】 繁殖成功

・令和6年2月に監視止まり、同種に排斥行動、3月に並び止まりや交尾を確認した。6月の踏査で既存の巣Ⅳに約38日齢の巣内雛を確認した。9月20日には幼鳥の飛翔を確認したため、繁殖成功と判断。

#### ■Bペア

#### 【繁殖結果】 繁殖成功

・2月に監視止まり、巣材運搬を確認し、3月7日に抱卵開始、4月22日に孵化を確認した。7月5日に営巣地監視システムにより巣立ちを確認し、8月調査では幼鳥の飛翔を確認したため、繁殖成功と判断

#### ■Dペア

#### 【繁殖結果】 繁殖なし

・令和6年3月には、成鳥の監視止まり、交尾を確認したが、産卵は確認されず、7月以降の巣立ち時期にも幼鳥の確認がなかったため、繁殖はなかったと判断。

#### ■Eペア

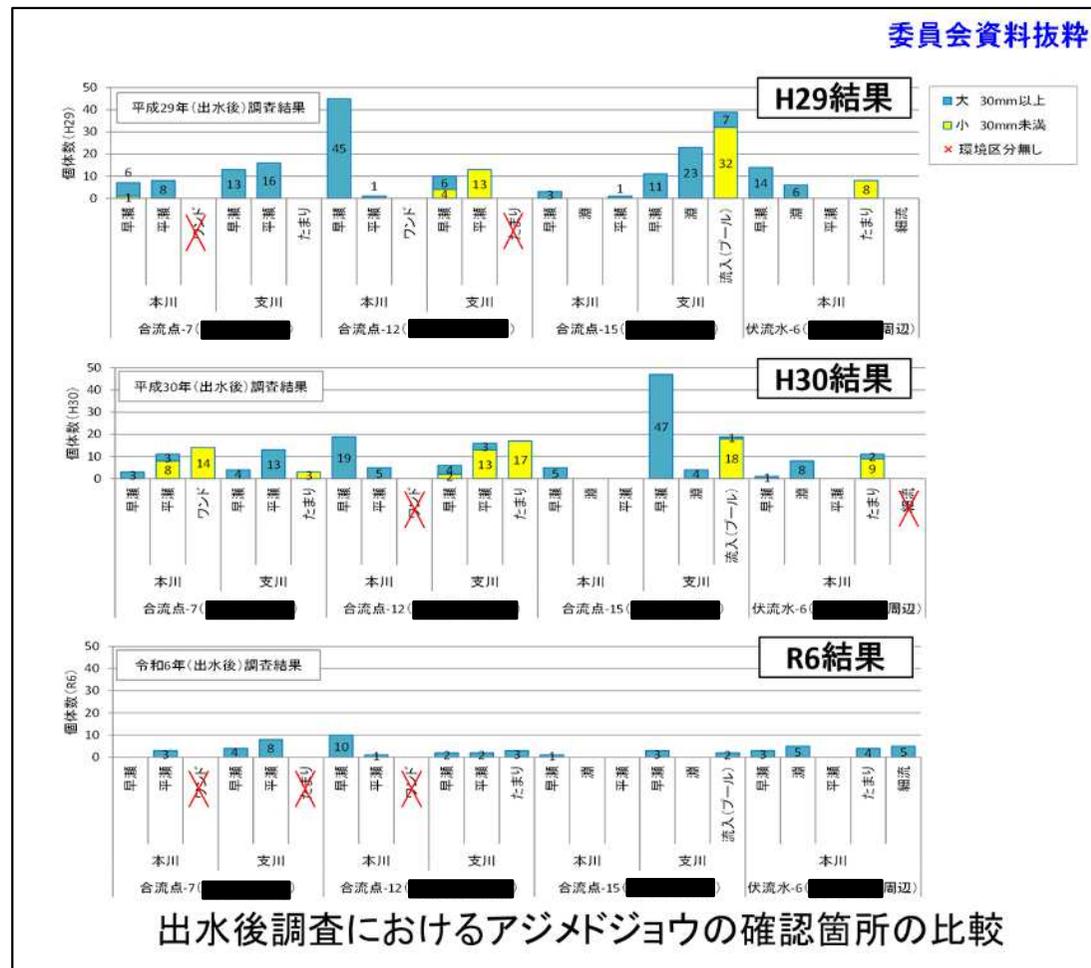
#### 【繁殖結果】 繁殖成功

・令和6年5月調査において雌成鳥が羽を乾かした後、スギ林内に消失する行動を確認したことにより、6月の踏査で新たな巣Ⅴにて巣内雛を確認した。9月調査では幼鳥の飛翔を確認したため、繁殖成功と判断

### 【委員からの意見】

クマタカDペアの繁殖失敗の要因について、これまでの調査結果(視覚・騒音データ等)を用いて考察を深めること

### ○アジメドジョウの出水後の調査結果



### 【委員からの意見】

保全措置検討のための出水時調査に水温も考慮しながら評価することに加え、生息状況調査の実施を検討すること。

## Ⅲ. 委員会における指摘事項

### ■ 前回委員会における結果概要

#### ● 委員からのご意見及び助言

- 水海川分水施設について、土砂の管理・対策などの将来の維持管理面を考慮した更なる検討を行うこと。
- ダム本体のカーテングラウトについて、施工工程を考慮した上で、引き続き流水型ダム  
の特性を踏まえた合理化に関する検討を進めること。
- 引き続き、コスト縮減・工期短縮に努めること。

### 委員会での指摘事項

青文字: 前回指摘事項

赤文字: 今回報告

#### ■ 主な指摘事項

- ① 足羽川ダム本体建設工事におけるDX活用の効果を定量的に評価できるように検討する他、流水型ダムの特性を踏まえたダム本体建設費の合理化を図ること。

ダム本体のカーテングラウトについて、施工工程を考慮した上で、引き続き流水型ダムの特性を踏まえた合理化に関する検討を進めること。

⇒ 流水型ダムの特性を踏まえた合理化について検討中。

- ② 水海川導水トンネルの施工における地質状況の把握において、引き続き調査を行い、精度向上および施工の最適化を図ること。

⇒ 「水海川導水トンネル技術検討委員会」の助言を踏まえ、最適化を図ったことで、今年度中に掘削工事完了予定。

### 委員会での指摘事項

青文字: 前回指摘事項  
赤文字: 今回報告

#### ■ 主な指摘事項

- ③ 水海川分水施設について、土砂の管理・対策などの将来の維持管理面を考慮した更なる検討を行うこと。  
⇒ 現在土砂収支を算出中であり、今後維持管理計画に反映していく予定である。
- ④ 水海川導水トンネル吐口部から下流側において、洪水の流下に伴う影響(洗掘など)について水理模型実験結果も踏まえ、必要な対策を検討する。  
⇒ 導水トンネル吐口部から下流対策について引き続き検討中。
- ⑤ 試験湛水期間中及び管理移行後の洪水調節池内の樹木管理については、伐採木の有効利用について引き続き検討する。  
⇒ 試験湛水計画及び維持管理計画について検討中。

### 委員会での指摘事項

青文字: 前回指摘事項  
赤文字: 今回報告

#### ■ 主な指摘事項

- ⑥ ダム本体工事の本格化を踏まえ、引き続きコスト縮減および工事過程を含めた観光資源価値を活かす検討を行うこと。
  - ⇒ 県・町を含めてダム周辺の利活用にあわせて引き続き検討中。
- ⑦ 生息魚類等について、モニタリング調査を継続し、魚道完成後の機能の評価に活用していくこと。
  - ⇒ モニタリング調査を継続し、評価に活用していく。
- ⑧ ダム本体打設について、社会的要因の変化に対応した工期短縮の可能性について、更なる検討を行うこと。
  - ⇒ 遅延材を活用した工期短縮について検討中。
- ⑨ 建設発生土の有効活用について、更なる検討を行うこと。
  - ⇒ 付替道路等への土砂活用について実施中。

## **IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について**

## IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

### ■ コスト縮減・工期短縮の検討に関する一覧表

	項 目	コスト縮減	工期短縮	備 考
検討が完了した項目				
①	ダム本体堤趾部の置換えコンクリートの省略	●		実施済
②	トンネル掘削ズリ及び堤体基礎掘削岩のダム堤体コンクリート用骨材への有効活用	●		実施中
③	トンネル掘削ズリの工事用道路の路盤材等への有効活用	●		実施中
④	付替林道(小部子線)計画の見直し	●		実施済
⑤	水海川分水施設におけるソイルセメントの採用	●		実施中
⑥	足羽川ダム本体建設工事におけるDXの活用 (自動打設システム、締め固め管理システム等)	●	●	実施中
⑦	水海川導水トンネル工事における減水注入工法の採用	●		実施中
⑧	減勢工導流壁への購入コンクリートの採用	●	●	実施中
⑨	ダム本体建設工事におけるF-1断層による基礎処理の見直し	●		実施済
⑩	トンネル掘削ズリの付替道路への流用	●		実施中
⑪	ダム本体工事における仮設備の撤去	●	●	実施予定
⑫	水海川導水トンネル 中央排水工の削減	●	●	実施不可
⑬	ダムコンのシステム統合、構成の簡素化	●		実施予定
⑭	本体コンクリートの配合の見直し	●		実施中
⑮	天端橋梁のプレキャスト化	●		実施予定
⑯	電気設備関連の変更	●		実施予定
⑰	覆工板の早期撤去による賃料の削減	●		実施予定

## IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

### ■ コスト縮減・工期短縮の検討に関する一覧表

項 目	コスト縮減	工期短縮	備 考
今後検討を行う項目			
⑱ 付替県道等の施工範囲の見直し	●		-
⑲ ダム貯水池内樹木の伐採範囲の見直し	●		検討中
⑳ 流水型ダムの特性を踏まえたグラウト施工の見直し	●		検討中
㉑ 水海川右岸支川貯砂ダムの構造変更	●		検討中
㉒ 原石山の骨材採取後の埋戻し方法	●		検討中
㉓ 遅延剤の活用によるダム堤体打設の工期短縮	●	●	検討中
㉔ R9年度打設範囲の購入骨材への切り替え	●		検討中
㉕ 工事用道路を活用した配線ルート変更による電柱移設等の見直し	●		検討中

## IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

### コスト縮減

#### ⑨ダム本体建設工事におけるF-1断層による基礎処理の見直し

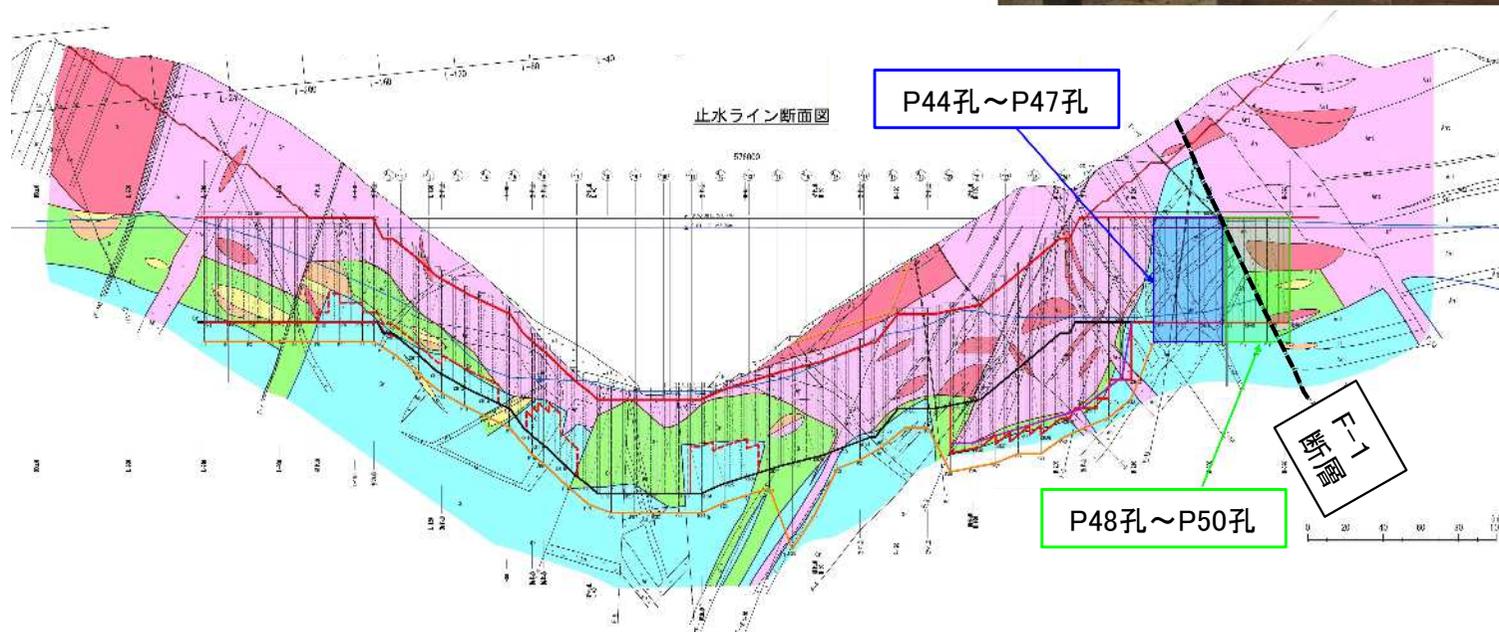
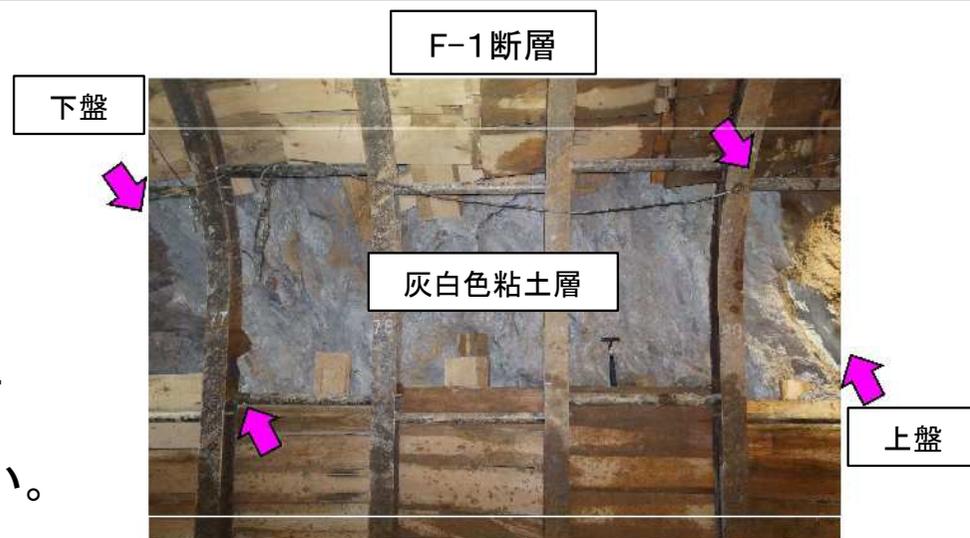
○ダム本体建設工事の基礎処理において、右岸側のF-1断層の締まった灰白色粘土層により低透水(2Lu以下)が確認されたため、カーテングラウト施工範囲の見直しを行った。

#### ・P44～P47

白色変質の影響により低透水が分布すると想定される範囲においては、パイロット孔により透水性を確認し、2 Lu未満の低透水が確認された場合は、規定孔を実施しない。

#### ・P48～P50

F-1断層の遮水により地下水位がサーチャージ水位以上が存在していることから、パイロット孔により透水性を確認し、2 Lu未満の低透水が確認された場合は、規定孔を実施しない。

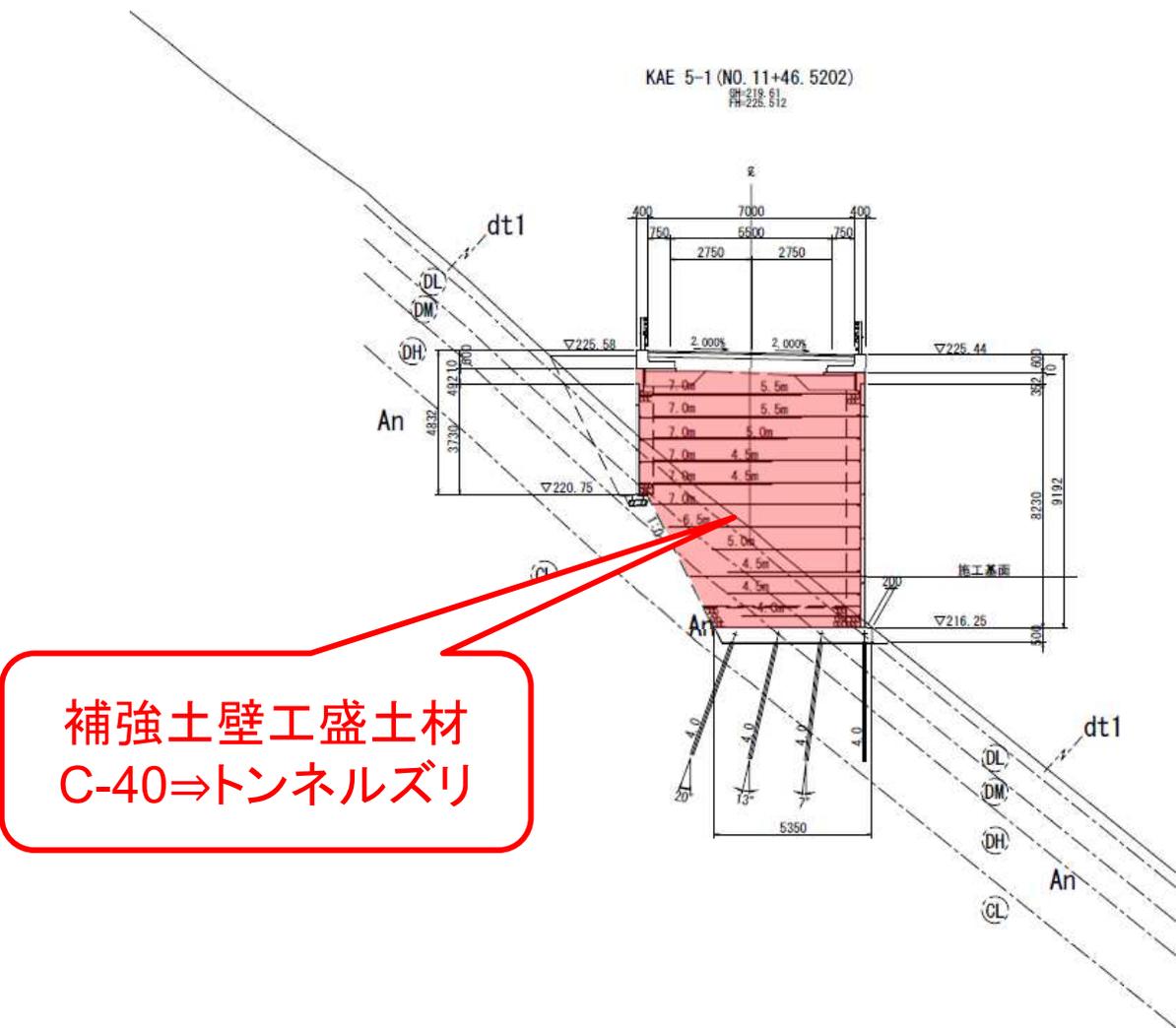


# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑩トンネル掘削ズリの付替道路への流用

○付替道路工事の土砂配分計画の見直しにより、盛土区間で使用する材料を購入材C-40(80,000m<sup>3</sup>)からトンネルずりに切り替えることによりコスト縮減を実施。



# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

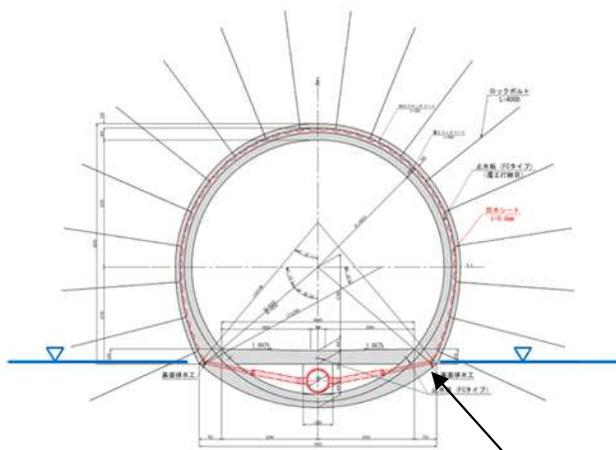
### ⑫水海川導水トンネル 中央排水工の削減

検討内容:水海川導水トンネルの排水をトンネル床版上を流すことにより、中央排水工を削減することでコスト縮減・工期短縮を検討する。

検討結果:中央排水を削減する場合、地下水の排水能力が低下し、洪水時においてトンネル外の地下水位が高い状態が続くが、一方でトンネル内水位は導水が完了すると水位が低下し、覆工に対して外水圧が発生することから、覆工の厚みを増やす必要がある。

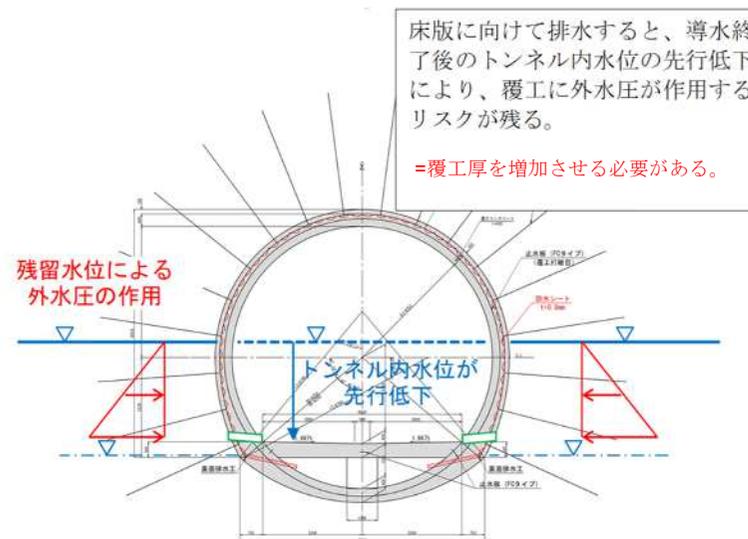
「現設計」と「覆工圧の増強(増額) + 中央排水工の省略(減額)」を経済比較をした結果、現設計の方が安価であることから、不採用とする。

中央排水工有り



裏面排水工、中央排水工により地下水位が低下され、覆工に外水圧は作用しない。

中央排水工無し

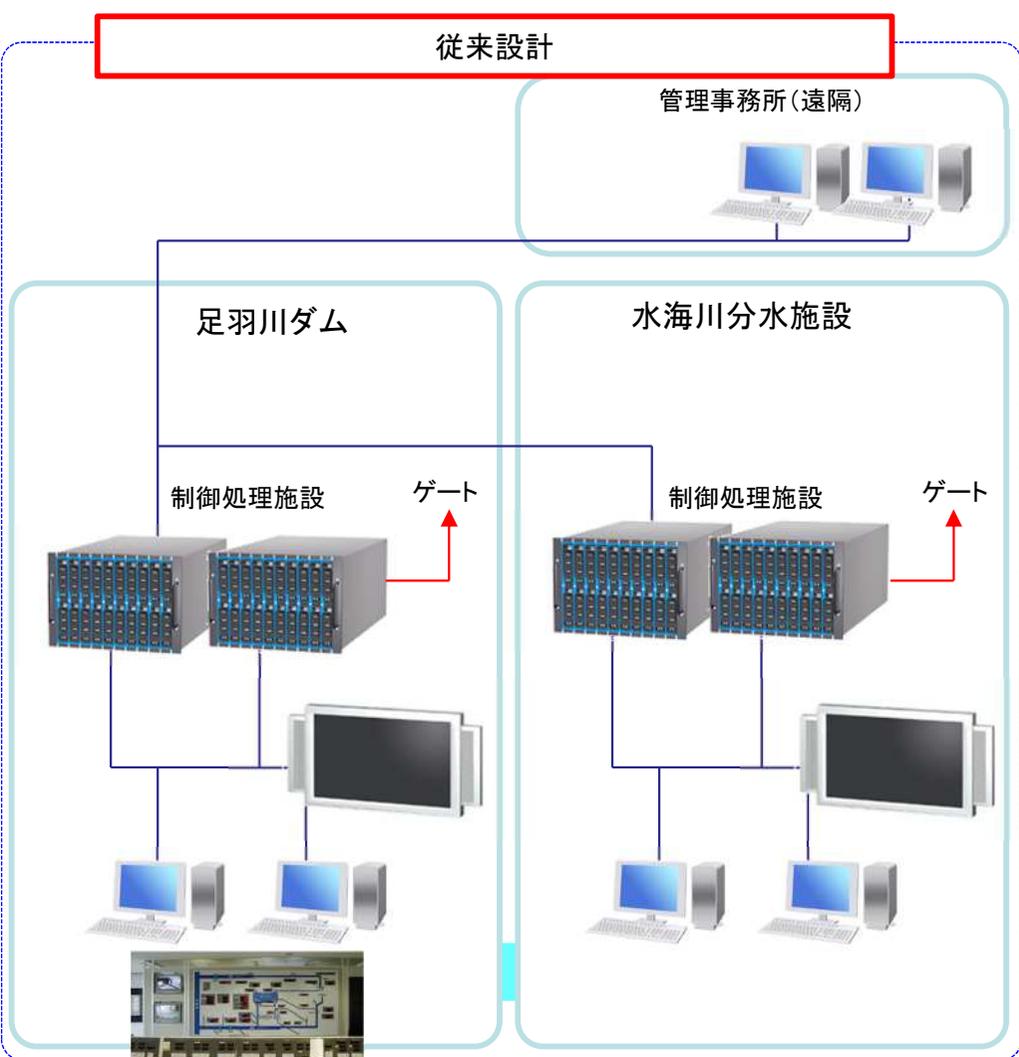


# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

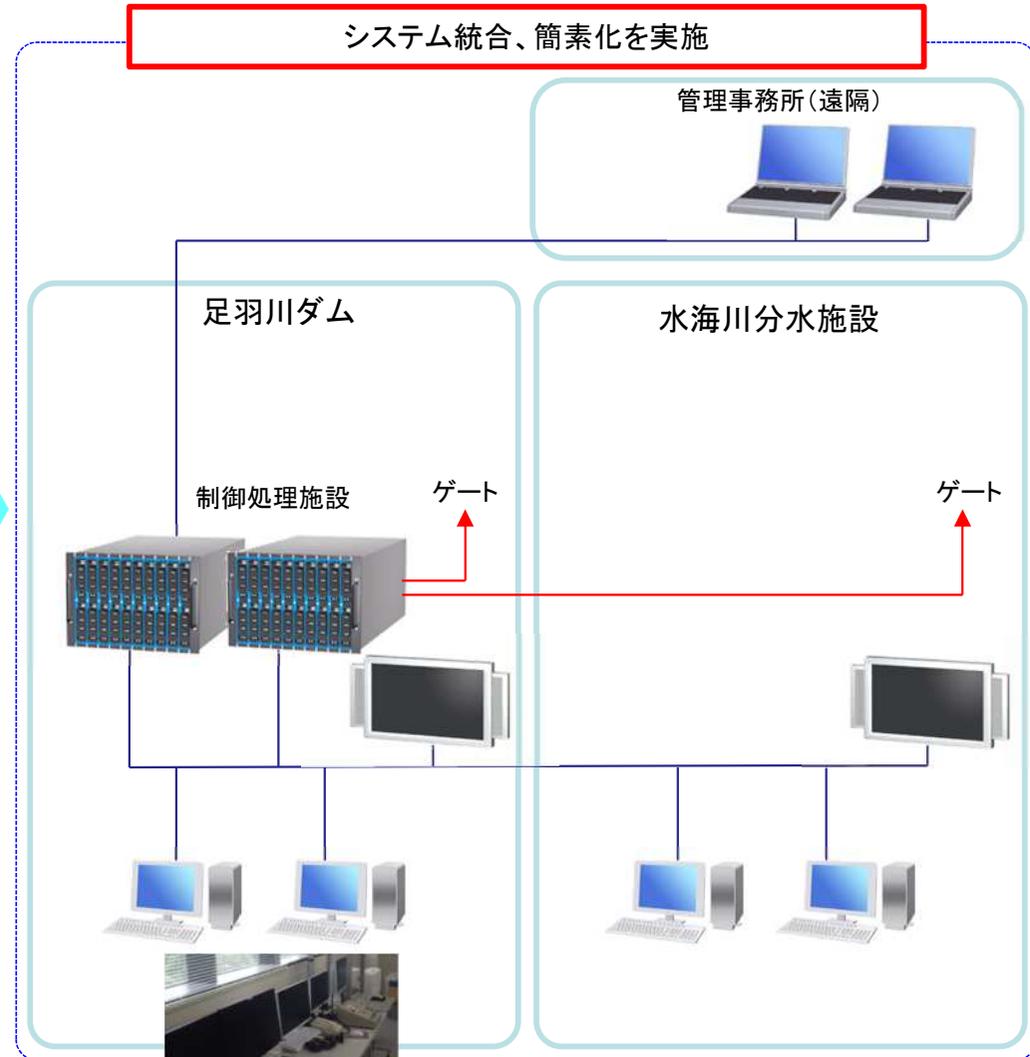
## コスト縮減

### ⑬ダムコンのシステム統合、構成の簡素化

- ダム完成後の管理設備として設置するダム管理用制御処理装置(ダムコン)を専用操作卓をから汎用PCに変更することでコスト縮減を実施予定。
- ダム管理用制御処理設備(ダムコン)を従前の1ダム1システムではなく、全体のシステム統合を行うことで構成を簡素化する。



ダムコン専用操作卓(イメージ)



汎用品(イメージ)

# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑭ 本体コンクリートの配合の見直し

○コンクリートの91日強度試験の結果、現在のコンクリート配合比で設計基準強度である15.8N/mm(割増係数1.12)を十二分に満たしているため、91日強度試験の結果を元にコンクリート配合比を見直し、セメント量低減によるコスト縮減を図る。

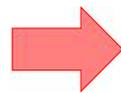
### 【内部コンクリート(B1・B2配合)】

● 設計基準強度(割増係数1.12)

15.8N/mm

● 現配合による91日強度試験結果

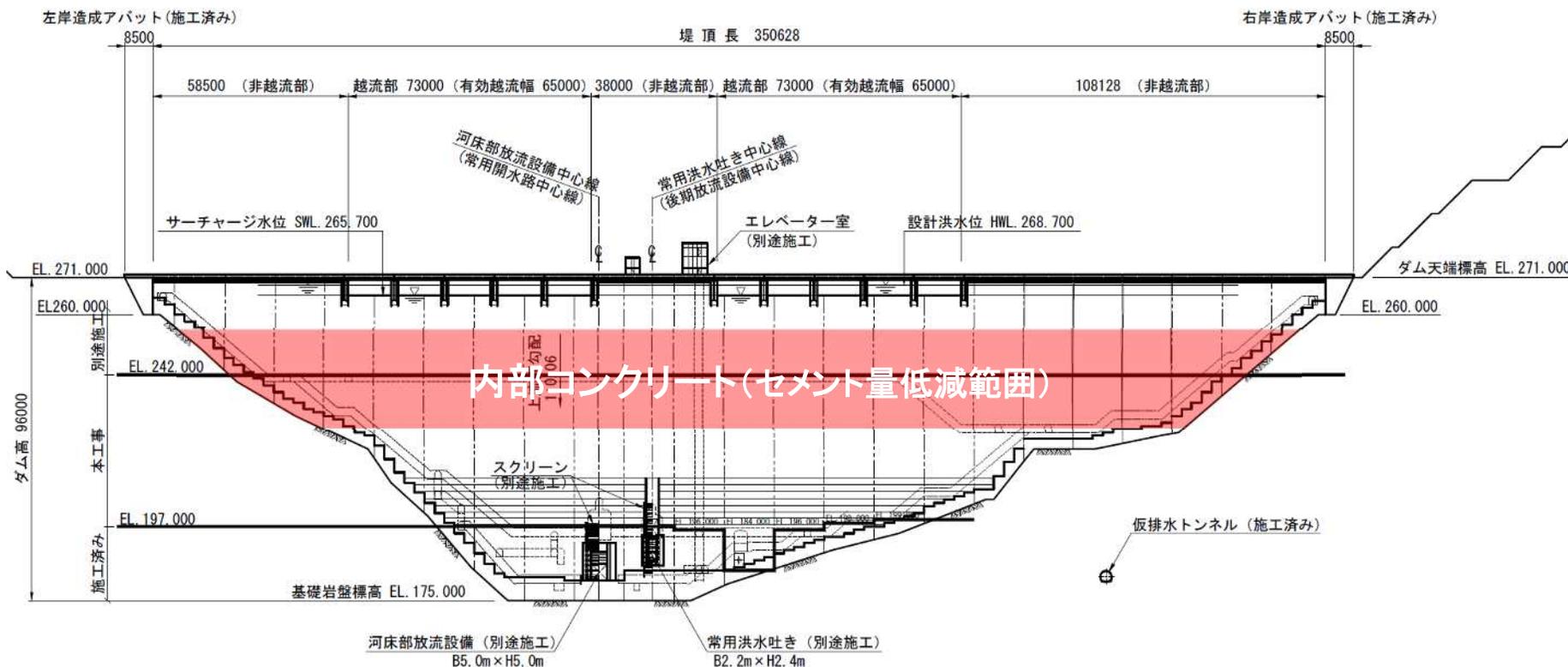
22.6N/mm **強度に余裕あり**



● **配合見直し (セメント量低減)**

※複数配合を試験し、強度を確保しつつ

低コストかつ施工性の良い配合を決定予定。



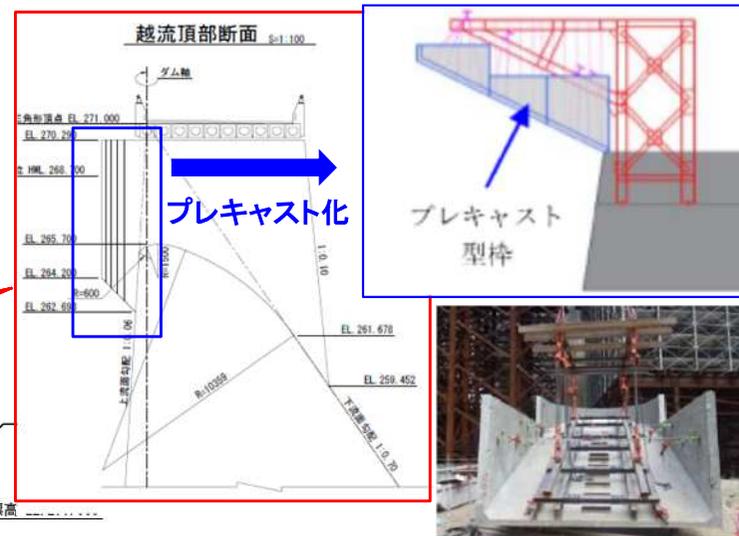
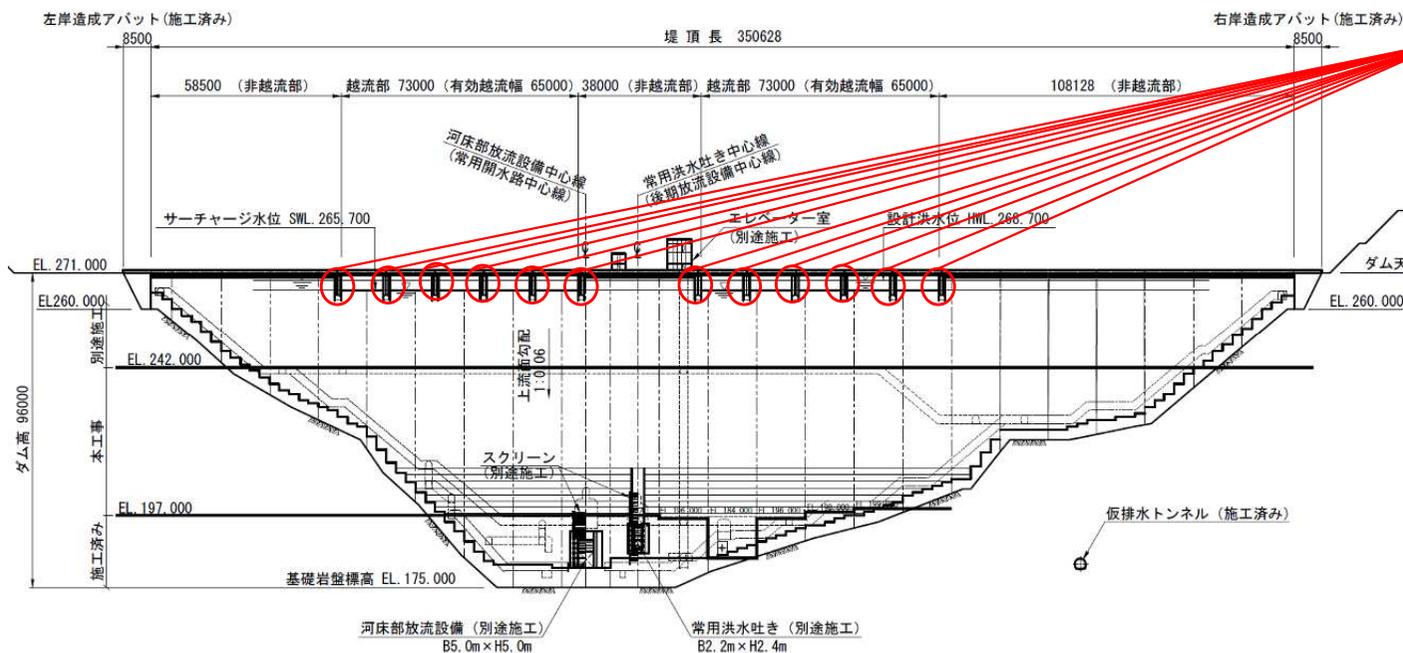
# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑮天端橋梁のプレキャスト化

○天端橋梁の橋脚の型枠を通常の型枠からプレキャスト型枠に変更することによりコスト縮減を実施予定。

- 天端橋梁の橋脚の型枠を通常の型枠からプレキャスト型枠に変更することで、型枠設置にかかる仮設等が減少することでコスト縮減につながる。また、プレキャスト型枠による工期短縮及び安全性の向上が見込まれる。



プレキャスト型枠のイメージ

# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑩電気設備関連の変更

#### ●堤体内監査廊照明の停電補償を蓄電池から蓄光テープに変更

- ・監査廊照明のうち、停電時(発電機稼働までの1分弱)対策のため一般的に使用されている蓄電池内蔵照明を使用せず、高輝度蓄光テープによる対応に変更し機器費を縮減。

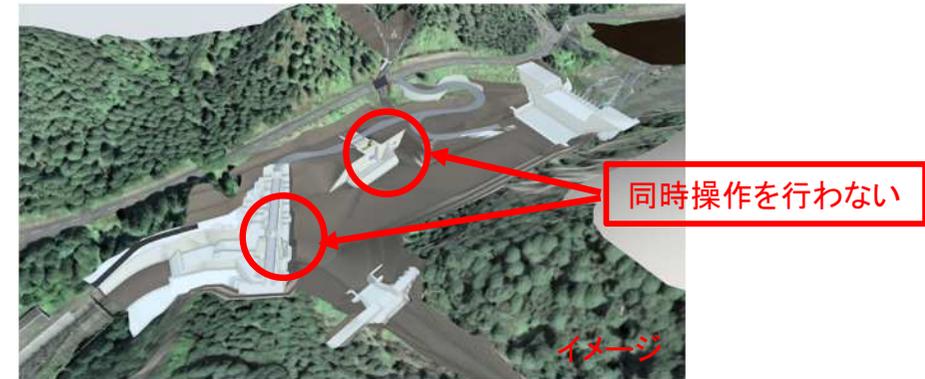


#### ●テレメータ及び放流警報局舎の統合

- ・金見谷(導水トンネル吐口)の水位観測所と警報局舎を統合し、同一局舎内に収容することで局舎整備費を縮減。

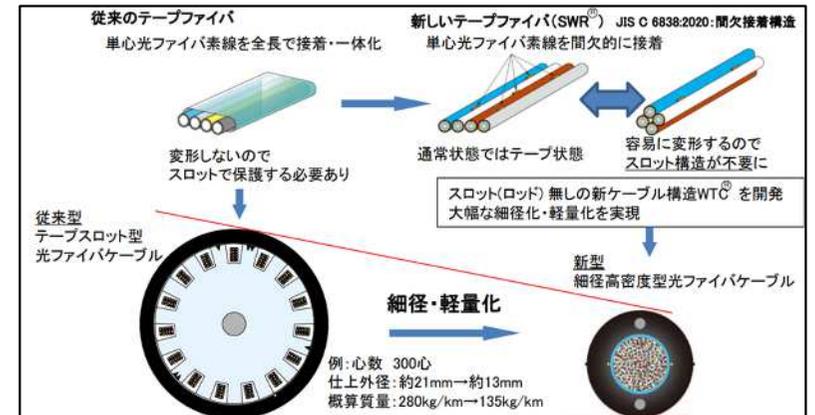
#### ●水海川分水施設のゲート操作の工夫による受変電機器の見直し

- ・水海川分水施設において、常用洪水吐・導水トンネル呑口各ゲートを同時起動しないようダムコンで制御することで、最大使用電力を低減し、高圧(6,600V)受電→低圧(105/210V)受電に変更可能となり、受変電設備及び発電設備の機器費を縮減。



#### ●新規敷設光ケーブルの仕様を変更

- ・従前より使用されているテープスロット型光ケーブルから細径高密度型スロットレス光ケーブル(NETIS登録)に変更することで軽量化による施工コストを縮減。

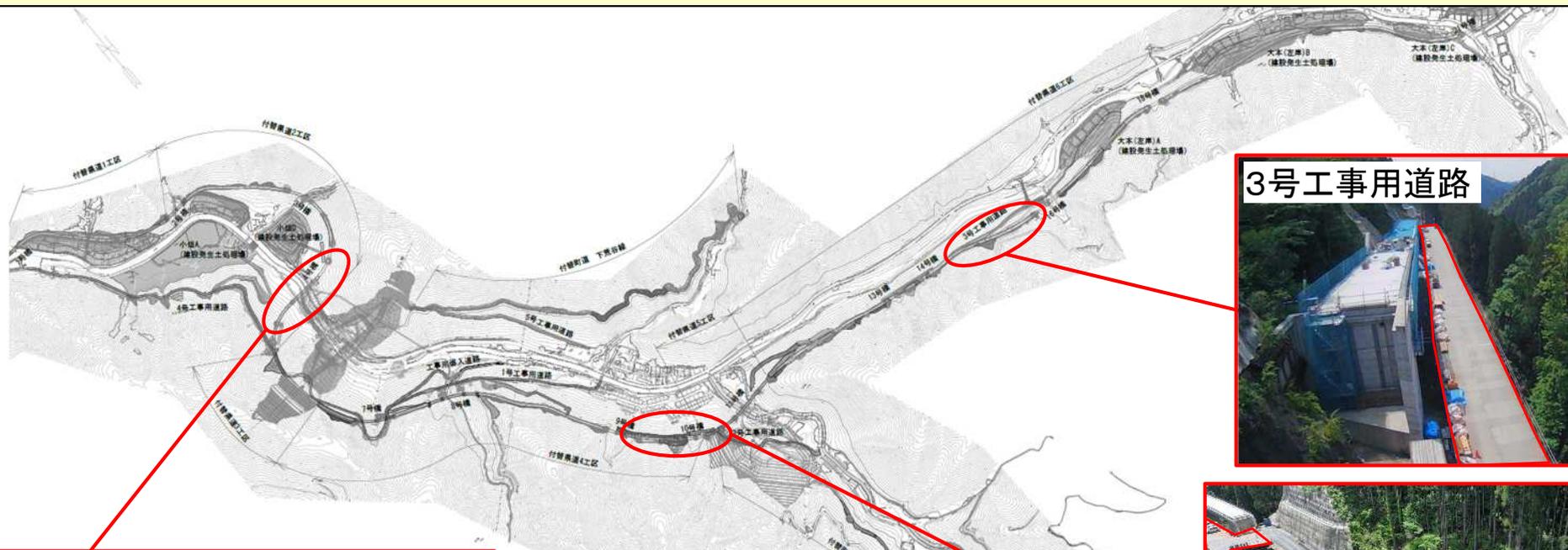


# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑰覆工板の早期撤去による賃料の削減

○橋梁の工事進入路として整備した仮栈橋にかかる覆工板について、橋梁架設後に撤去することを予定していたが、早期撤去を検討し覆工板賃料のコスト縮減を図る予定。



3号工事用道路



4号橋仮栈橋



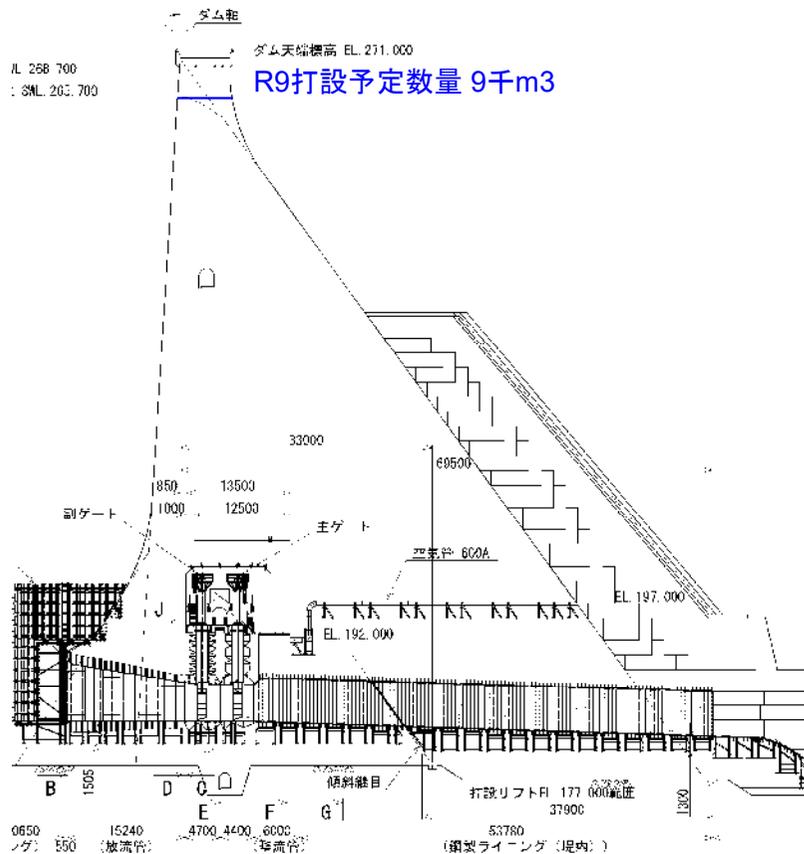
9号橋仮栈橋等

# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ⑳R9年度打設範囲の購入骨材への切り替え

○R9年度の高標高部コンクリート打設を購入骨材に切り替えることにより、Co打設に係る施工関連設備をR8年12月に撤去することで損料期間を削減しコスト縮減を検討する。



R9年度打設を購入骨材に切り替えると骨材製造が不要

	R8年度												R9年度							
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8			
コンクリート打設 (原石山利用有)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
骨材製造	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
コンクリート打設 (原石山利用無)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
骨材製造	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			

R8年12月にCo打設関連設備の一部を撤去することで損料期間を約7ヶ月削減

# IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

## コスト縮減

### ②工事用道路を活用した配線ルート変更による電柱移設等の見直し

○付替県道工事完了後に工事用道路に配線していた電柱・電線等を付替県道に付け替える計画をしていたが、工事用道路を残置することで、付替県道への電柱移設等を削減することによりコスト縮減を検討する。

